

校長室より

第1号

「天空高き」

平成22年4月13日



4月1日に宮川明理事長より、高水高等学校附属中学校校長を拝任しました。昨年までは高水高等学校六年制普通科長として附属中学校から進学してくる生徒を指導していました。またクラブ活動では3年前までは附属中学校サッカー部の顧問でした。皆さんはたぶん、私のことを知らないと思いますのでまず自己紹介をしましょう。

私は昭和42年に高水高等学校附属中学校に入学しました。錦帯橋の下を流れる錦川を約40kmさかのぼると、清流線の終着駅である「錦町」に辿り着きますが、そこが私の出身地です。今は岩国市に入っていますが、合併前は玖珂郡錦町広瀬という地名でした。口の悪い友達に、「広瀬は山口のチベットだ。」とよくかいました。冬になるとよく雪が積もる寒い地域なのです。

当時、清流線は、JRに分割民営化される前の国鉄の地方線で岩日線と呼ばれていました。岩国駅で山陽本線に乗り換えて南岩国駅で下車しての通学時間・方法は今も昔も変わりませんが、山陽本線は時刻によっては蒸気機関車（SL）が走っているときもありました。煙で顔が汚れるので各駅のホームには洗面できるコンクリート製の長い流し台にたくさんの蛇口がありました。今では懐かしい思い出の一つです。

遠隔地から来る生徒のために愛宕寮がありました。今もグラウンドの南側にありますが、廃寮になっています。私が入寮した時には中高合わせて40名前後いました。6年間いましたので、思い出がいっぱい詰まっていますが、紙面の都合上、いつかまたそのお話を皆さんにできればと思います。

昭和48年に高校卒業後大学に進学。昭和56年に京都の大学院を卒業後、専門が農学なので教育関係の経験を積むため、山口大学大附属光中学校に1年間お世話になり、昭和57年に母校に帰ってきました。中学1年の担任としてスタートし、気がつけば28年間が経過していました。

4月7日に始業式が、8日には入学式が行われました。皆さんの前で話す経験が少なかった上に、壇上で皆さんにお話をするということに慣れていなかったため、緊張と不安が交錯しました。大変勇気の要ることもありました。実は私は少し上がり性なのです。私の思いが上手く伝えられたかなと思うので、改めて要約して再現します。

『皆さんを支え、取り巻く多くの人たちや物をリスペクト（大切に思うこと）することは、皆さんを支え、取り巻く人たちの「思い」を大切にすることになります。この高水学園で皆さんのそれぞれの「思い」をお互いに大切にしながら、「かけがえのない関係」を創りあげてもらいたい。』というお話とお願いでしたね。



学園のシンボル「楽学の碑」

56名の新入生諸君、入学おめでとう。

総勢167名の鷹の子の皆さん、この学園を進学先の一つとし選んでいただいたのも不思議な巡り合わせです。この出会いを大切にしてください。この学園で、人生において一番多感な時期を先生方や友達と一緒に生活します。「一生つきあえる友」、「生涯尊敬できる師」そして「愛読書」をこの学園で見つけてください。

皆さんの羽ばたきを期待しています。

校訓

「師弟親愛」「堅実明朗」「勤労実践」

高水高等学校附属中学校
校長 前田 茂雄